

令和元年度

# 業務実績等報告書

令和2年6月

公立大学法人奈良県立医科大学



# 公立大学法人奈良県立医科大学 令和元(2019)年度計画の実施状況

【価値目標及び実現目標の法人自己評価】  
 S：中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある  
 A：中期計画の達成に向けて順調に進んでいる  
 B：中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる  
 C：中期計画の達成のためにはやや遅れている  
 D：中期計画の達成のためには重大な改善事項がある

【年度計画の法人自己評価】  
 S：年度計画を上回って実施している  
 A：年度計画を十分に実施している  
 B：年度計画をおおむね実施している  
 C：年度計画を十分には実施していない  
 D：年度計画を大幅に下回っている。又は、年度計画を実施していない

地域貢献

I 地域貢献（教育関連）		目標項目：地域に貢献する医療人の確保と質の向上		
1 医師・看護師・保健師の県内定着	価値目標	(1) 県内で質の高い医療を効率的に提供する体制を構築するため、医師を養成・確保 (2) 県内の看護師等学校養成所を卒業して県外で就業した者が、県外の看護師等学校養成所を卒業して県内で就業する者を上回っている中、地域医療体制を支える看護師を確保 (3) 健康寿命日本一を目指す上で、保健指導の中心的役割を果たす保健師を確保	価値目標評価	B

取組内容（2019～2024年度）		2019年度計画												
<p>○附属病院専攻医養成プログラムの質向上および魅力を伝えるための取り組みを推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>著名な臨床医を招聘する等の取り組みにより、専攻医養成プログラムの充実を図る。</li> <li>本学卒業生の進路を把握し、当院専攻医登録に向け積極的な働きかけを行う。</li> <li>県内基幹病院と連携し、県内専攻医登録率の向上を目指す。</li> </ul> <p>○奈良県及び奈良県内の医療機関の魅力を伝えるための取り組みを推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>奈良への愛着、県内の地域医療に対する意識を涵養するための授業科目「奈良学」を継続して実施する。</li> <li>県内医療機関での早期体験実習（early exposure）の拡充を図る。</li> <li>在宅医療に関する講義、実習を充実する。</li> </ul> <p>○県内医療需給の動向に関する地域医療対策協議会の検討を踏まえ、地域枠定員数の調整を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医学科入学生の入試区分と進路の関連を分析する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>Dr.Nプロジェクトを始めとした各種教育プログラムにおいて、継続的に著名講師を招聘し、充実した内科専攻医養成プログラムを実施する。</li> <li>県とも連携し、本学初期研修医修生の進路を正確に把握する。</li> <li>学部学生及び本学を卒業した初期研修医に対し、当院内科専攻医プログラムの魅力を発信する。</li> <li>県内内科専攻医登録率向上に向け、奈良県と協議を行う。</li> <li>県内の地域医療に対する意識を涵養するため、平成30年度に実施した「奈良学」の授業評価を踏まえ、カリキュラムをブラッシュアップする。</li> <li>早期体験実習（early exposure）の実施案を作成するとともに、受け入れ病院の確保を県の支援を受けながら進める。</li> <li>臨床医学教育課程で引き続き在宅医療学の講義を実施するとともに、臨床実習においても在宅医療学を実施する。</li> <li>医学科入学生の入試区分と進路の関連を分析するための、医学科学生進路の追跡を地域医療学講座、臨床研修センター、県費奨学生配置センター、同窓会の協力を得て実施する。</li> </ul>												
2019年度計画の実績及び評定理由		評価	実現目標	評価	現状	2019	2020	2021	2022	2023	2024	評価区分		
(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>7/2に睡眠（呼吸器）が専門のUmakanth A. Khatwa M. D. (Boston Children's Hospital, Harvard Medical School, USA) と Karen Spruyt Ph. D. (Lyon Neuroscience Research Center, France) を、2/13に平島修先生（徳洲会奄美ブロック総合診療研修センター）を講師として招聘し、Dr.Nプログラムを実施した。</li> <li>奈良県医師・看護師確保対策室と連携し、県内9臨床研修病院のH31.3修了初期研修医の進路について、情報収集を行った。</li> <li>臨床実習において、内科系を履修した学生に対して、診療科ごとのプログラムの魅力やキャリアパスなどについて、丁寧な説明・指導を行った。</li> <li>11/15に、県内で後期研修を実施する全施設が一堂に会する「奈良県専門医協議会」が開催され、県内専攻医登録率向上について県内全施設が一致団結する旨の方向性が確認・承認された。</li> <li>2018年度に実施した「奈良学」に関する授業評価や教職員が提起した課題等をもとに、見学先病院での病院紹介テーマが被らないように各病院ごとにテーマを割り振ることや病院見学での経験をシンポジウムの発表内容について盛り込むこと等のブラッシュアップを行い、実施した。</li> <li>早期に県内の医療機関の魅力を伝えることを目的に、低学年生に県内の医療機関で実施する早期体験実習（early exposure）の実施案を作成するため、10月に開催された「西日本地区公私立医科大学・医学部教務連絡協議会」での他大学の実施内容等も参考とし、当該実習を通じて総合診療医の育成教育及び在宅医療教育の拡充等をねらいとして実施する案を検討した。また、実習病院については、奈良県が重点的に取り組んでいる、回復期、慢性期医療を主に支える奈良県内の「面倒見のいい病院」などを想定しており、次年度以降、県等とも調整していく。</li> <li>へき地医療支援病院である南奈良総合医療センターの協力を得て、4週間・8週間臨床実習で、在宅医療の臨床実習を実施した。</li> <li>過去4年間の入学試験区分別の県内初期臨床研修割合を地域医療学講座で分析した。</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画をおおむね実施している。</p>	B	①県内で臨床研修を行う医大卒医の県内基幹病院における専攻医登録率の確保	A	目標	-	第3期期間平均 80%						---	
					実績	-	88.1%							b
			②医学科卒業生の県内就業率の確保	B	目標	-	体験機会内容検討	県内医療機関への早期体験実習(early exposure)実施						---
						-	第3期期間平均 60%							
					実績	-	体験機会内容検討							
						C	57.9%	56.7%						
③県内医療需給の動向に関する地域医療対策協議会の検討結果に応じた地域枠の人数の調整	B	目標	-	地域枠定員数の調整検討						---				
		実績	-	データ分析実施								e		

取組内容（2019～2024年度）		2019年度計画											
2)	<p>○看護学科生の県内就業者を確保するため、看護学科学生に対する効果的な就労支援を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師のロールモデル形成に役立てるため、学生と附属病院看護師との交流をさらに活発化させる。</li> <li>・看護学科学生のキャリアパスの形成支援を充実させる。</li> </ul> <p>○奨学金制度を活用し、看護学生の県内就業者を確保</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅看護特別教育プログラムに短期プログラムを導入するなど幅広くプログラム受講者を確保する。</li> </ul>	<p>・学生と附属病院看護師との交流を活発化させるため、講話や技術体験交流を内容とするプログラムを実施する。</p> <p>・看護学科生のキャリアパス形成を支援するため、入学時のオリエンテーション等の機会を利用して、講演会や就職ガイダンスを実施する。</p> <p>・「在宅看護特別教育プログラム」の応募者数を確保するため、奨学金制度を活用した短期プログラム等を導入する。</p>											
	2019年度計画の実績及び評定理由	評価	実現目標	評価	現状	2019	2020	2021	2022	2023	2024	評価区分	
	<p>・看護学科生の将来のキャリアパス形成の支援のため、4/5に1年生を対象に、6/26に2年生を対象に看護部長による看護師としてのキャリアデザインに関する講話を行った。</p> <p>・学生の県内就職を促すため、看護学科4年生を対象に4/3に看護部及び奈良県看護協会の平会長による講話を行った。</p> <p>・11/27に看護学科生のキャリアデザインプログラムとして、4年生を対象に、現在カナダトロントの病院に勤務している本学附属病院出身の看護師を講師として招き講演会を実施した。</p> <p>・「在宅看護特別教育プログラム」の応募者数を拡大するため、4/1付け在宅看護人材育成修学資金貸与規程の一部改正において、通常の看護学科3年生からプログラムを受講し修学資金を受ける奨学金制度（大学生6年プログラム）に加えて、看護学科3年生からプログラムを受講し修学資金貸与は看護学科4年生から受けるという奨学金制度（大学生4年プログラム）を活用した短期プログラム及び大学院1年生からプログラムを受講し修学資金を受ける奨学金制度（大学院6年プログラム）を導入した。</p> <p>2019年度現在、看護学科3年生2名が大学生6年プログラムを受講している。</p> <p>また、看護学科2年生に対して1/10に2020年度の受講者募集説明会を実施し、3月に選考を行い、応募者1名の受講を決定した。</p> <p>以上のことから、年度計画をおおむね実施している。</p>	B	④看護学科卒業生の県内就業率の確保	B	目標	-	看護実践・キャリア支援センターで就労支援の実施						---
					実績	-	「在宅看護特別教育プログラム」実施						
					-	第3期期間平均 65%							
			B	実績	-	キャリアデザインに関する講話の実施						e	
			B	実績	-	短期プログラムの導入						e	
			B		55.6%	68.0%						b	

取組内容（2019～2024年度）		2019年度計画											
3)	<p>○保健師課程履修学生の県内就業者を確保するため、県・市町村との連携のもと、県内保健師として就業する意欲を向上させるような、講義、実習を充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・へき地への就職に関する学生の意識変革が図れるよう、保健所等関連施設と連携する。</li> <li>・県内で保健師として活躍したいという意欲を向上させるため、各実習施設との連携を強化する。</li> </ul>	<p>・保健師課程選択試験の志願時から、学生の将来の希望を把握する。</p> <p>・へき地の実情や行政活動の課題等を理解するため、実際にへき地を訪れて実習する「へき地体験実習」を拡充させる。</p> <p>・「奈良県公衆衛生看護学実習調整会議」において、県内保健師の需給と偏在等を明確にするとともに、公衆衛生看護学実習の課題解決のための協議を促進させる。</p>											
	2019年度計画の実績及び評定理由	評価	実現目標	評価	現状	2019	2020	2021	2022	2023	2024	評価区分	
	<p>・2019年度の保健師課程選抜試験から、志願書に卒業後の進路について記述させることとし、学生の将来の方向性を把握した。</p> <p>・へき地の実状や行政活動の課題等をより深く理解させるため、2019年度より「へき地体験実習」を2日間に増加させた。へき地診療所の現状と保健師の活動状況を理解させるため、10月に1泊2日で十津川村において「へき地体験実習」を実施し、学生13名が参加した。</p> <p>・5月に開催された「奈良県公衆衛生学実習調整会議」で、実習生の市町村配置に関する要望や課題をもとに、学生、教育機関、実習施設のニーズを満たす実習配置の在り方について協議した。</p> <p>以上のことから、年度計画をおおむね実施している。</p>	B	⑤看護学科卒業生の保健師県内就業率の増加	B	目標	-	第3期期間平均 6人						---
					実績	4人	6人						

2 医師の偏在・散在の解消	価値目標	(1) 奈良県の医師数は全国平均を上回ったが、診療科では全国平均を下回る科もある（偏在）ことや、中規模病院が多く、病院当たりの医師数が少ないこと（散在）の是正が必要	価値目標評価	A
---------------	------	--	--------	---

取組内容（2019～2024年度）		2019年度計画										
<p>○県及び各関係機関との連携のもと、県費奨学生のキャリアパス形成を支援し、地域医療に貢献する医師を育成するとともに地域の医療機関からの派遣要請等を精査し、適正な医師派遣を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良県の地域医療構想、医師確保に関する計画及び県内の医療機関の現状・実態を踏まえ、適正な医師派遣を行う。</li> <li>・県費奨学生に対し、制度の主旨の理解を深めるとともに、医師としてのキャリアパス形成を支援し、離脱防止を図る。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の医療機関と面談を行い、医師派遣の必要性について現状把握に努める。</li> <li>・定期的な機関誌の発行や、医局及び医療機関と意見交換を行い、医師派遣の協力を求める。</li> <li>・義務履行の理解を深めるため、保護者を含めた県費奨学生との面談や、ランチミーティング、バスツアーによる病院見学等を通じて制度の趣旨について説明を行う。</li> </ul>										
2019年度計画の実績及び評理由	評価	実現目標	評価	現状	2019	2020	2021	2022	2023	2024	評価区分	
<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月、6月、12月、1月に公立・公的病院12施設を訪問し医師の充足状況や医師派遣の必要性、医師の働き方改革を加味した業務環境について施設の現状の聞き取りを行った。その結果、主要医療施設の医師は概ね充足している印象であったが、へき地及び中小規模医療施設では内科医師、特に幅広い診療を行う総合内科医の需要が高まっていた。また、へき地等での医師不足は、南和広域医療企業団や近隣の医療機関との連携で部分的には補填されていたが、県の高齢化は深刻で、患者のみならず地域医療を担う医師も高齢化しており、「地域医療を担う医師の育成強化」や「新たな体制作り」という今後の課題が見つかった。</li> <li>・県費奨学生配置センター機関誌「Glocal」を8月、12月、3月と年3回発行し、医局及び各医療機関（県内医療機関93箇所、奈良医大50箇所）へ配布し、県費奨学生配置センターの取組など情報発信を積極的に行い情報共有を進めた。</li> <li>・県費奨学生とその保護者に義務履行の理解と離脱防止のため、以下の取組を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・4月 今年度の緊急医師枠新入生13名とその保護者を対象に、2日間の緊急医師確保枠制度（以下、制度）の説明会を実施</li> <li>・6月 初期臨床研修医対象の制度説明会を行い（研修医11名参加）義務履行の再確認を実施</li> <li>・4～12月 県費奨学生全学年88名（他大学2名含）との面談を実施し制度の理解と離脱防止、キャリアパス形成の支援実施。また、離脱相談者のための個人面談も随時行い離脱防止に努めた</li> <li>・6月、10月、1月に計8回のランチミーティングを実施し、県費奨学生と初期研修医、担当教員がランチを囲みながら初期研修の現状や魅力等を話しキャリアパスについての情報交換実施</li> <li>・7月 3施設訪問（奈良県総合医療センター、近畿大学奈良病院、奈良県西和医療センター）のバスツアーに他学の奨学生を含む1年生と5年生10名が参加し、地域医療マインドの醸成等を図った。見学した施設からは、外来等が稼働している平日の訪問での診療見学をさせたいとの要望もあったため今後の検討課題とする</li> <li>・11月 県費奨学生と保護者対象の定期総会を実施し60名（学生31名・保護者29名）の参加があり、奈良県医療政策局長、本学理事長（県費奨学生配置センター長）から、奈良県の医療の現状や良き医療人のあり方、臨床研修医等からはキャリアパスに関しての講話があった。それらを通して奨学生とその保護者への制度と義務履行の理解強化とキャリアパスへの不安軽減を図った</li> </ul> </li> </ul> <p>以上のことから、年度計画を十分に実施している。</p>	A	<p>①県立医大医師派遣センター等を通じた地域の医療機関への配置医師数の増加 （第3期期間累計）</p>	S	目標	-	7人	14人	24人	36人	49人	56人	---
		実績	S	(H27-H29) 12人	16人						a	
		<p>②医師が不足するへき地や診療科、診療分野に従事する医師数の増加 （第3期期間累計）</p>	A	目標	-	41人	56人	66人	88人	100人	105人	---
		実績	A	(H25-H29) 28人	42人						d	

3 看護師の質の向上	価値目標	(1) 看護職員役割が拡大する中、専門的な知識と技術に裏付けられた高い看護水準を担保するため、専門看護師や特定行為研修修了者等、高いスキルを持つ看護職員を養成。また、住み慣れた自宅での療養ニーズに対応するため、訪問看護師の質を向上	価値目標評価	S
------------	------	---	--------	---

(1)	取組内容（2019～2024年度）	2019年度計画											
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○特定行為研修を修了した看護師・専門看護師を増やすとともに、看護職員の教育・研修プログラムを充実させることにより地域の看護師の能力を向上</li> <li>・特定行為研修(急性期コース)や専門看護師の資格取得者を増加させるため、意向調査や情報提供を行う。</li> <li>・在宅看護のスキル向上のため、当院と訪問看護ステーション間の交流研修を行う。</li> <li>・看護職員の専門知識及び能力養成のための研修プログラムを充実させる。</li> <li>・特定行為研修(在宅コース)を修了した看護師数を増加させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定行為研修(急性期コース)や専門看護師の資格取得者を増加させるため、意向調査や情報提供を行う。</li> <li>・在宅看護のスキル向上のため、当院と訪問看護ステーション間の交流研修を行う。</li> <li>・看護職員の専門知識及び能力養成のための研修プログラムを充実させる。</li> <li>・特定行為研修(在宅コース)を修了した看護師数を増加させるため、情報提供を行う。</li> </ul>											
	2019年度計画の実績及び評定理由	評価	実現目標	評価		現状	2019	2020	2021	2022	2023	2024	評価区分
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資格取得の意向調査や情報提供を実施し、特定行為研修（急性期コース）で4名、（在宅コース）で3名、専門看護師で2名の志望者を発掘できた。</li> <li>・当院の現任教育「地域につながる看護（6/17）」に訪問看護ステーションから講師を招聘、また看護実践・キャリア支援センターの地域貢献に関わる研修「認知症看護（6/22）」では、訪問看護ステーションから13名、「摂食・嚥下障害看護（11/16）」では2名、「遺伝性がんをめぐる診療と看護（1/11）」では、院外看護職8名が参加するなど相互交流を推進した。</li> <li>・奈良県看護協会中和地区支部会議に参加（1回/月）し、地域の看護・介護のネットワーク強化を図った。また中和地区看護職連携会議（5/31・10/25・2/21）にも参加した。</li> <li>・在宅看護特別教育プログラムについて、研修施設と研修期間の見直し及び6月に出向時の処遇を整理するなど、プログラムの充実を図った。6月～7月に出向で奈良県看護協会立訪問看護ステーション・やわらぎの郷にて訪問看護を実践した。</li> <li>・キャリア開発の動機付けを図るため、9月に実践活動報告会、3月に研修修了者による伝達講習会を行った。</li> </ul>	S	①特定行為研修（急性期コース）を修了した看護師数の増加 （第3期期間累計） ＊院内のみ	S	目標	-	3人	6人	9人	12人	15人	18人	---
	以上のことから、各課題への取組を着実にいき、年度計画を上回って実施している。	S	②専門看護師数の増加 （第3期期間累計）	S	目標	-	-	1人	-	2人	-	3人	---

I 地域貢献（研究関連）	目標項目：県民の健康増進への貢献				
4 地域に根ざし地域と歩む研究の推進	価値目標	(1) 奈良県の医療・保健・福祉に関する諸課題を解決するため、県と連携して研究に取り組み、その成果を県民に還元		価値目標評価	S

取組内容（2019～2024年度）		2019年度計画										
<p>○市町村や県が実施する健康増進事業への協力・連携及び実践的研究を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援事業を専門的見地から展開する。</li> <li>・提供を受けた健康関連データの見える化を図る。</li> <li>・健康長寿に関する施策のエビデンス作りを支援する。</li> </ul> <p>○健康寿命延伸や医学を基礎とするまちづくり研究等を進展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県民の健康寿命延伸等のためのコホート研究に取り組む。</li> <li>・MBTによる産業の創生や県内企業等との連携を進め、医学的知見や知識を活かした医学を基礎とするまちづくり研究に取り組む。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「なら健康長寿基本計画」で得られた統計データを評価し、健康長寿の延伸に寄与する要因を明らかにする。</li> <li>・市町村の「健康増進計画」の立案や見える化について助言する。</li> <li>・市町村が実施する介護保険等の調査を支援し、エビデンスに基づく事業計画等の立案と実行について助言する。</li> <li>・県が実施する生活習慣等の調査に基づく施策作りを支援する。</li> <li>・センターが支援してきた市町村の調査結果や公的統計のデータの分析を進め、研究成果として情報発信する。</li> <li>・センターの新規利用を県・市町村に働きかけ、2019年度の新規件数を5件にする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重点研究課題である健康寿命延伸のためのコホート研究の定期的な進捗管理を行う。</li> <li>・重点研究課題であるMBT研究に関する諸事業を実施するとともに、研究成果の地域への還元のため企業等とも連携し、情報を発信する。</li> </ul>										
2019年度計画の実績及び評価理由	評価	実現目標	評価	現状	2019	2020	2021	2022	2023	2024	評価区分	
<p>・市町村の「健康増進計画」の立案や見える化支援として、奈良県より派遣依頼を受け中和保健所に向し、中和保健所管内市町村の「健康増進計画」の中間評価や見える化への助言・指導を行ったほか、田原本町の「第2次健康たわらもと21等後期計画策定のためのアンケート調査」の実施および分析を助言するなど、県市町村の保健事業にかかる調査のデータ分析や指導・助言を行った。</p> <p>・市町村の介護保険等への支援として、香芝市と共同研究の取り交わしを行い、「介護保険意向調査」のアンケート作成の段階から報告書作成までの支援・指導を行い、第8期介護保険事業計画の立案と実行について助言した。</p> <p>また、橿原市介護保険運営協議会に委員として、高取町地域包括支援センターのアドバイザーとして参画し、市町村の介護保険事業への指導・助言を行った。</p> <p>・奈良県の生活習慣等の調査に基づく施策づくり支援として、県が行ったレスパイト調査の分析支援及び県が行ったがん対策見える化推進事業の支援を行った。</p> <p>・センター活動紹介や健康データ活用に関する情報発信として、ニュースレターを年2回（Vol.9 9月、Vol.10 1月）発行した。</p> <p>・研究活動として、厚生労働省の許可を受け国民生活基礎調査の匿名データを活用した分析を行いその成果を学会や学術雑誌に公表するとともにニュースレターで情報発信した。</p> <p>・県や市町村に対しセンター機能のPR活動を展開し奈良県医療保険課、国保事務支援センター、後期高齢者医療広域連合など7件の新規利用を得ることが出来た。</p> <p>・コホート研究課題について、研究推進戦略本部会議において進捗管理を行った（12/19、3/24）。</p> <p>また、研究成果を地域住民向け広報誌「奈良医大キャンパスだより」（2019春号）に掲載・発表し、研究成果の地域への還元を行った。</p> <p>（※続き次頁）</p>	S	①県民健康増進支援センターによる県・市町村及び民間医療機関等の支援の新規件数（累計）の増加 （第3期期間累計）	S	目標	25件	30件	35件	40件	45件	50件	---	
				実績	(H26-H29) 25件	45件					a	

2019年度計画の実績及び評定理由		評価	実現目標	評価	現状	2019	2020	2021	2022	2023	2024	評価区分
(1)	<p>(※前頁続き)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・MBTコンソーシアム企業とも連携し専門部会（6部会1分科会）において、本学のシーズや企業ニーズの情報交換を行った。個別企業のニーズ相談については、一般企業も含めMBT相談体制の設置を行い対応を行っている。</li> <li>・4月より企業と共同で、約300人を対象にウェアラブル端末等を活用したヘルスケアサービスの実証実験を行い、地区住民等の健康管理に役立つサービスの検討を実証した。なお、この取組は新聞及びテレビにて紹介され、幅広く周知された。</li> <li>・スマートフォンに心電図等の情報を表示させるシステム「Safety-Net MBT」について企業と共同で開発を進めた。</li> <li>・企業と共同で開発したためまい対策用の「～耳石に優しい～睡眠調整マットレス」の開発・販売を行った。またMBTのロゴマークにより、MBTブランドの浸透を行った。</li> <li>・MBT活動について広く展開するため、北海道と栃木県にMBTの地方組織を設立するべく、関係団体と調整を行った。</li> <li>・5/15台湾中正大学の副学長等12名がMBT調査のため来学し、MBTについての活発な意見交換を行った。</li> <li>・7/12「Medicine-Based Town」が文字商標登録された。</li> <li>・7/17MBT構想の積極的展開を目指し、マレーシアプトラ大学と医療・介護・健康問題についての情報交換、相互の連携強化を図った。</li> <li>・10月下旬～大学発ベンチャー企業MBTリンク社が、「MBTLINK HEALTHCAREサービス」の販売を開始した。</li> <li>・10月～12月MBT連携企業の職員を対象としたMBTLinkシステムの実証実験を行い、MBT研究の進展を図った。</li> <li>・10月～1月MBTの全国展開として、北海道でMBT研究の一つである健康モニター実証実験を行い、その報告会を2/20に行った。</li> <li>・1月下旬MBTの世界展開を図るため、2025年大阪万博で実証する未来社会のアイデア公募にMBTLinkシステムの内容を応募した。</li> <li>・3/24研究推進戦略本部会議において、MBT研究の進捗状況の報告を行った。</li> <li>・大学院の専攻科目に「MBT学」を設置し、見守りシステムの開発等地域の安全・安心に貢献する研究人材の養成を行った。</li> <li>・地域住民向け広報誌「奈良医大キャンパスだより」（2019春、秋）内にて、MBTの取組内容を啓発した。</li> <li>・MBT研究所と榎原市今井町自治会とが共催し、今井町地元集会所で、理学療法士や看護師の参加の下、毎月2,3回MBT健康教室を開催し月約25名の参加があった。</li> <li>・MBTの取組について講演会やイベント等で紹介・周知した。</li> </ul> <p>以上のことから、各課題への取組を着実にいき、年度計画を上回って実施している。</p>	(前頁記載)										



I 地域貢献（診療関連）		目標項目：地域医療機関との連携・機能分担の推進								
5	県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践	価値目標	(1) 救急医療体制を強化するとともに、奈良県基幹災害拠点病院として、県民を守り地域の安心の確保に貢献						価値目標評価	A

取組内容（2019～2024年度）		2019年度計画													
<p>○県内の救急医療に関する諸機関との連携体制の下、重篤な救急患者の受け入れを中心に、県民を守る「最終ディフェンスライン」としての取り組みを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・24時間365日ER型救急医療体制とe-MATCHを活用した救急コーディネーター事業の確立により、救急隊からの受入照会に対する受入率の向上を図る。</li> <li>・安定したER型救急医療体制とするため、新たに（仮称）ERセンターを設置し複数診療科の医師とトリアージナース等を配置する。</li> <li>・母体搬送コーディネーター事業等により、新生児県内受入率及びハイリスク妊婦の受入率向上を図る。</li> </ul> <p>○県内医療機関との連携強化と機能分担を推進し、基幹災害拠点病院としての取り組みを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・災害医療を支えるDMATチームの育成を図り、新たに2チームを増加させる。</li> <li>・院内での各部門別災害医療訓練と全体訓練を実施する。</li> <li>・他機関との連携を想定した災害医療訓練について検討し実施する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・e-MATCHを活用した救急コーディネーター事業の確立のため県と協議し、救急隊からの受入照会に対する受入率の向上を図る。</li> <li>・安定したER型救急医療体制とするため、後方支援病院との連携を強化する。</li> <li>・母体搬送コーディネーター事業等により、新生児県内受入率及びハイリスク妊婦の受入率向上を図る。</li> <li>・DMATチームを増加させるため、新たな隊員を養成する。</li> <li>・院内での各部門別災害医療訓練と全体訓練を実施する。</li> <li>・他機関との連携を想定した災害医療訓練について検討する。</li> </ul>													
2019年度計画の実績及び評定理由		評価	実現目標	評価	現状	2019	2020	2021	2022	2023	2024	評価区分			
(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・e-MATCHを活用した救急コーディネーター事業の確立について、県、消防、当院出席の「救急搬送及び医療連携協議会の分類基準・重症度部会（7/29）」で検討した。</li> <li>・平日は概ね満床状態であり、安定したER型救急医療体制とするため、7/29に中南和地域の連携病院と転院調整等についての意見交換会を開催した。</li> <li>・1/10、24時間365日ER型救急医療体制について院内検討会を開催し、（仮称）ERセンター設置、運用ルール、病床確保や転院調整等について検討した。</li> <li>・県外への母体搬送については、奈良医大が受け入れ不可で他府県に紹介した例は1件であったことから、母体搬送コーディネーター事業は順調に運営できた。</li> <li>・DMATチームを増加させるため、今年度は新たな隊員11名を養成した。</li> <li>・病棟等各部門で69回の災害医療訓練を実施した。また、12/6に災害医療図上訓練を実施した。</li> <li>・他機関との連携した訓練については、2021年度実施に向け訓練形態や連携病院について検討し、2020年度も引き続き検討している。</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画を十分に実施している。</p>	A	①中南和地域における重症以上の傷病者搬送事業において医療機関に受入の照会を行った回数4回以上の割合の低下（1月～12月）	S	目標	-	5.7%	5.2%	4.7%	4.2%	3.7%	2.7%	---		
					実績	6.2% (H28.1～12月)	1.81%							a	
			②24時間365日ER型救急医療体制の確立	B	目標	-	検討	確立	運用						---
					実績	土日祝ERの運用	患者受入体制の強化検討								e
			③救急隊からの受入照会に対する受入率の向上（高度救命救急センター）	B	目標	-	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	---
					実績	94.0%	92.6%								c
			④新生児県内受入率及びハイリスク妊婦の県内受入率の向上	A	目標	-	新生児100%	新生児100%	新生児100%	新生児100%	新生児100%	新生児100%	新生児100%	新生児100%	---
					実績	-	ハイリスク妊婦100%	ハイリスク妊婦100%	ハイリスク妊婦100%	ハイリスク妊婦100%	ハイリスク妊婦100%	ハイリスク妊婦100%	ハイリスク妊婦100%	ハイリスク妊婦100%	c
					目標	新生児99.2%	新生児99.1%								
					実績	ハイリスク妊婦97.6%	ハイリスク妊婦99.6%								
⑤災害医療を支えるDMATチームの育成（第3期期間累計）	S	目標	-	-	-	1チーム	-	-	-	2チーム		---			
		実績	4チーム	2チーム								(2019)e			
⑥教職員に対するBCPの周知徹底や他機関との連携を想定した災害医療訓練の検討及び実施	B	目標	-	検討	実施							---			
		実績	-	検討のためのワーキングを設置								e			

6 病病連携・病診連携の推進	価値目標	(1) 地域の医療機関との適切な機能分担と緊密な連携を推進し、地域医療を支える	価値目標 評価	A
----------------	------	---	------------	---

(1)	取組内容（2019～2024年度）	2019年度計画										
	<p>○地域の医療機関との密接な連携を進め、患者が必要な医療を継続して受けることのできる地域完結型医療を推進</p> <p>○糖尿病については、糖尿病学講座を中核に人材の養成と糖尿病診療ネットワークを通じた紹介・逆紹介の支援を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当院での高度な医療のために地域の医療機関から紹介された患者割合を維持する。</li> <li>・当院での高度な治療を終えて、地域の医療機関に紹介する患者割合を維持する。</li> <li>・地域医療連携バス、効果的な入退院支援、連携登録医制度の促進等により地域医療連携を推進する。</li> <li>・総合診療科を中心に検討のうえ、在宅医療の実施・支援のための在宅医療センターを設立・運営する。</li> <li>・診療科の状況に応じた調整を進め、実効性のある連携構築を踏まえた他病院との協議を進める。</li> <li>・医療圏別に配置したネットワーク病院（奈良県糖尿病診療ネットワーク専門医協議会）と協力してかかりつけ医との間で糖尿病患者の紹介、逆紹介を進め、糖尿病診療の質を高める。</li> <li>・必要となる糖尿病専門医を育成し、年1名（平均）ずつ資格を得ることを目指す。</li> </ul>	評価	実現目標	評価	現状	2019	2020	2021	2022	2023	2024	評価区分
<p>2019年度計画の実績及び評定理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紹介率・逆紹介率の維持や返書率向上に向け、院内会議にて啓発周知した。</li> <li>・医療機関の予約業務負担軽減や利便性の向上のため、連携登録医紹介患者からの直接予約受付を6月から開始（予約件数709件）し、予約方法を拡大した。また、迅速な受付及び来院患者の利便性向上を図るため、5月より初診予約受付場所を地域医療連携窓口から正面玄関初再診受付へ統合すると共に、紹介状取込みコーナーを受付近くに設置した。</li> <li>・医療機関との連携を図るため、11月に「連携登録医のつどい」を開催した（参加者49名）。3月に予定していた「地域医療連携懇話会」は新型コロナウイルス感染症対策のために開催中止した。</li> <li>・医大の情報提供、連携登録医制度や予約推進に向けた広報啓発のため、広報誌「地域医療連携室だより」を発刊した（8月、2月）。</li> <li>・在宅医療に関する今後のあり方の検討のため、中和在宅研究会を開催した（9月（第4回）、1月（第5回））。</li> <li>・近隣病院との新たな病病連携として、整形外科の連携体制構築のため、吉本整形外科・外科病院は10月、済生会御所病院とは11月に連携協定（申合書）を締結した。</li> <li>・済生会中和病院が進める「在宅医療後方支援病院」に同意参加し12月に協定書を締結した。</li> <li>・糖尿病診療ネットワーク専門医協議会による糖尿病医療に係る非専門医から専門医への紹介数増加への支援を行った。 協議会参画病院の拡大（2018年度11病院→2019年度12病院）</li> <li>・非専門医から専門医への紹介数については、新型コロナウイルス感染症の対応を行う医療機関の負担軽減のため、2020年6月末現在、県の調査は未実施であり実績値不明。2020年度中には調査予定。</li> <li>・10月に行われた糖尿病専門医試験に1名が合格し、糖尿病専門医の目標養成数を達成した。</li> <li>・これらの取組を通じて、地域医療機関との連携を深めたことにより、初診予約実績が13,509件（2018）から13,791件（2019）に増加したとともに、紹介率及び逆紹介率とも目標を上回る率を確保できた。</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画を十分に実施している。</p>	A	①高い紹介率の維持	A	目標	-	93%以上	93%以上	93%以上	93%以上	93%以上	93%以上	---
		実績	92.5%	93.2%	d							
		②高い逆紹介率の維持	A	目標	-	82%以上	82%以上	82%以上	82%以上	82%以上	82%以上	---
		実績	81.3%	91.9%	a							
		③総合診療科に在宅医療部門を設立	B	目標	-	在宅医療研究会 1回目：9月開催 2回目：1月開催				センター 設立	支援が必要な地域への対応	---
		実績	-	e								
④近隣病院との新たな連携の構築	A	目標	-	各医療機関と個別交渉のうえ協定書等を締結し、相互連携を強化 各診療科・医療機関の状況に応じて協定締結を進め、年度毎の計画で進捗管理	---							
実績	-	2医療機関と連携協定	e									
⑤糖尿病診療ネットワーク専門医協議会による糖尿病医療に係る非専門医から専門医への紹介数増加への支援	-	目標	-	前年度より増加させる	前年度より増加させる	前年度より増加させる	前年度より増加させる	前年度より増加させる	前年度より増加させる	---		
実績	-	県調査未実施	a									
⑥糖尿病専門医養成数の増加（第3期間累計）	B	目標	-	1人	2人	3人	4人	5人	6人	---		
実績	1人	1人	a									

7 各領域の担い手となる医療人の育成	価値目標	(1) 質の高い医療を実践できる優秀な医師を確保し、県民が県内で高度な医療が受けられ、地域医療が充実する臨床研究支援体制を確立	価値目標評価	B
--------------------	------	---	--------	---

(1)	取組内容（2019～2024年度）		2019年度計画										
	<p>○県内及び全国の医療機関等との連携を進めるとともに質の高い国際水準の臨床研究を実施する体制を整え、臨床研究への支援を進め臨床研究中核病院の承認要件充足に向けた取り組みを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>臨床研究中核病院に求められる特定臨床研究の新規実施件数等の要件を満たすため、臨床研究の支援体制を強化し、研究計画書作成やデータマネジメント業務等への支援の充実を図る。</li> <li>手順書を整備する等臨床研究中核病院に求められる各部門の体制整備を進める。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>臨床研究センターの研究支援機能を向上させるため、体制の充実を図る。</li> <li>職員の研究支援能力を向上させるため、臨床研究中核病院等の研修会に積極的に参加させる。</li> <li>院内及び外部機関の臨床研究に携わる医師、歯科医師、薬剤師、看護師、CRC、DMその他の従事者に対する研修会を実施する。</li> <li>臨床研究中核病院によるチェックにより必要とされた手順書等の作成や改訂を進め、臨床研究の適切な実施体制の構築を目指す。</li> </ul>										
	2019年度計画の実績及び評定理由	評価	実現目標	評価		現状	2019	2020	2021	2022	2023	2024	評価区分
<ul style="list-style-type: none"> <li>4月の組織改正によって、審査部門として生命倫理監理室を分離新設するとともに、臨床研究センターの人員を増員し、体制強化を図った（3月末時点で28人体制）。</li> <li>研究者への支援能力向上のため、臨床研究コーディネーター養成研修等、専門的な研修に延べ47名を参加させた。</li> <li>臨床研究の初心者を対象にした、基礎セミナー（5回）、統計セミナー（9回）を7月に立ち上げ、延べ71名が受講した。また、研究倫理講習会を6回開催し、1,071名（院外23名）が受講した。</li> <li>手順書の作成については、他学の状況を調査し、2020年度も引き続き調査する。</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画をおおむね実施している。</p>		B	①臨床研究中核病院の承認を得る	B	目標	-	取組実施			承認取得	承認要件維持		---
					実績	-	要件充足のための人員確保及び特定臨床研究の新規実施の推進等						e

II 教育		目標項目：最高の医学と最善の医療を行う「良き医療人」の育成					
8	「心の教育」を軸とした「良き医療人」の育成	価値目標	(1) 知識・技能はもとより、豊かな人間性に基づいた高い倫理観と旺盛な科学的探究心を備え、患者・医療関係者、地域や海外の人々と暖かい心で積極的に交流する医療人の育成 (2) 臨床実習を強化し、患者安全に関する基本教育、医療者になる自覚の強化、参加型臨床実習への円滑な移行による臨床マインドの育成			価値目標評価	A

取組内容（2019～2024年度）		2019年度計画										
○「心の教育」を導入するなど「良き医療人育成カリキュラム」を充実 ・新たに「医師・患者関係学講座」を設置し、高度医療・急性期医療・慢性疾患における医師・患者関係を理解するための教育を実施する。		・臨床医学教育課程に「医師・患者関係学」講義を設置し、医師・患者関係を理解するための実践的教育を実施する。										
2019年度計画の実績及び評定理由		評価	実現目標	評価	現状	2019	2020	2021	2022	2023	2024	評価区分
(1)	<p>・医学科4年生の統合臨床講義科目に「医師・患者関係学」を導入した。5～7月にかけて医療行為に不可欠な「医師・患者関係」について医師と患者双方の視点を織り交ぜながら実践的な教育を実施した。学生の能動的学習を促進するため、学生を約60人ずつの2群に分け異なる日時に少人数制での実施や患者が語る病の体験を聴講し、それを基に1グループ7名程度のグループ単位でディスカッションし、その討論内容を発表するといったアクティブラーニング形式を取り入れて実施した。5年生及び6年生の臨床実習でも「医師・患者関係学」を導入するため、循環器内科、呼吸器内科でトライアル的に実施し、その実施内容も踏まえ、来年度の臨床実習では複数の診療科で本格実施することを決定した。</p> <p>また、当初の年度計画では予定していなかったが、6年生についても「医師・患者関係学」の講義を9月に実施し、実践的な教育を実施した。</p> <p>以上のことから、各課題への取組を着実にいき、年度計画を上回って実施している。</p>	S	<p>①高度医療における、患者の理解と自己選択を促すコミュニケーションを習得するための学習の充実</p> <p>②急性期医療における、患者の理解や受容を促すコミュニケーションを習得するための学習の充実</p> <p>③慢性疾患における、患者に寄り添うコミュニケーションや多職種連携を習得するための学習の充実</p>	-	-	「良き医療人育成カリキュラム」の充実					---	
						医師・患者関係学講座の設置	随時見直しを実施し、講義内容の改善及び充実を図る					
			S	実績	-	統合臨床講義で「医師・患者関係学」を実施						e
					-	医師・患者関係学講座の設置						e

取組内容（2019～2024年度）		2019年度計画											
<p>○医学科においては「医学教育モデル・コア・カリキュラム」及び「医学教育分野別認証評価」、看護学科においては「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」、「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」及び「看護学教育分野別認証評価」に則した専門教育を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習能力の到達度を測るため、形成的評価を積極的に導入する。</li> <li>・学生の学習能力到達状況に関する情報収集と分析を進める。</li> </ul> <p>○「良き医療人」の資質を持った受験生を増加させるため、高校と連携を密にした広報活動等を展開</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受験生案内を充実させる。（大学案内・募集要項・HP等）</li> <li>・医師・看護師の「仕事体験学習」を開催する。</li> <li>・高大連携事業を推進する。（本学における模擬講義等）</li> <li>・高校訪問等を実施する。</li> </ul> <p>○地域基盤型医療教育カリキュラム及び臨床マインド育成カリキュラム並びに看護に係る臨床実習を最適化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シミュレーション教育及び参加型臨床実習を推進し、臨床マインドの育成を図る。</li> <li>・看護技術項目の到達度が低い項目について、事由を分析し、授業及び実習内容の強化を図る。</li> </ul> <p>○良き医療人育成のために医療人としての教養教育を充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床英語強化カリキュラム及び医看合同カリキュラム並びに患者安全に関する基本教育を含めた6年一貫教育をより一層充実させる。</li> </ul> <p>○臨床実習の評価も踏まえた教育成果目標（アウトカム）を達成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床実習における経験及び症例の把握システムを構築する。</li> <li>・臨床実習における学生の経験内容も踏まえた教育成果目標（アウトカム）評価を実施する。</li> </ul> <p>○「看護技術項目到達度チェックリスト」（厚生労働省）の到達度を向上</p> <p>○医学教育モデル・コア・カリキュラムの理念に則り、臨床医学教育の充実を図るため教養教育をはじめとする全教育課程を見直し</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学教育分野別評価報告及び外部委員による評価を踏まえ、「良き医療人育成のためのプログラム」をはじめとするカリキュラムをブラッシュアップする。</li> <li>・学習能力の到達度を測るため、医学科の各教育課程における学生の学習能力到達状況の形成的評価を実施する。</li> <li>・「看護学教育分野別認証評価」及び改訂される予定の「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」を確認し、カリキュラムの改善事項等の洗い出しを行う。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受験生への案内を充実するため、学生の意見を反映した大学案内（2021案）を作成する。</li> <li>・高校生を対象とした「良き医療人教育」と「仕事体験学習」を教育開発センター、臨床研修センター及び附属病院の各施設と連携の上、実施する。</li> <li>・高校生を対象とした「模擬講義」「出前講義」等を実施する。</li> <li>・本学の入学生出身高校を中心に高校訪問を実施し、より積極的な広報活動を行う。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シミュレーション教育を推進するため、臨床実習においてスキルスラボの活用を促進する。</li> <li>・参加型臨床実習を促進するため、臨床実習のあり方案を作成する。</li> <li>・看護技術項目の到達度が低い項目について、看護学科各WG及び教務委員会で事由を分析する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療人としての教養教育を充実させるため、6年一貫教育科目である行動科学の授業時間数を拡充させる。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床実習における学生の経験内容も踏まえた教育成果目標（アウトカム）評価を試行する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・到達度の平均を90%以上に向上させるため、看護技術項目の到達度が低い項目について、看護学科各WG及び教務委員会で事由を分析する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医学教育モデル・コア・カリキュラムを踏まえ、各教育課程の見直しについての課題を整理する。</li> </ul>											
2019年度計画の実績及び評定理由		評価	実現目標	評価	現状	2019	2020	2021	2022	2023	2024	評価区分	
(2)	<p>・医療行為に不可欠な「医師-患者関係」を理解するため、「医師・患者関係学」を新たに導入することや医療人としての教養教育を充実させるため、行動科学Ⅱの授業時間数を拡充する等の「良き医療人育成」のためのカリキュラムのブラッシュアップを行った。また、学生の能動的学習を促進するため、ペアワーク等の新たな授業手法の導入等、授業の実施方法についても工夫して実施した。</p> <p>・学生の学習能力到達状況の形成的評価を実施するため、医学科3年次の11月にBNAT（基礎医学知識到達度評価試験）を、5年次の臨床実習Ⅰ終了時点で各科個別評価試験やCNAT（5年次臨床医学能力到達度評価試験）を実施した。各科目や分野ごとの正答状況や他学生の正答率が高い問題で不正解となっている問題を明示する等、学生へのフィードバックを12月に実施した。また、BNAT及びCNATの試験結果と各科目の定期試験や国家試験等との相関などを分析し、各教育協議会及び教務委員会で報告を行った。</p> <p>・「看護学教育分野別認証評価」においては、受審校の審査内容を情報収集、また、改訂される予定の「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」の内容の情報収集・精査をし、カリキュラムの改善事項等の洗い出しを継続的に行った。</p> <p>・次年度での大学案内（2021案）作成に向けて、看護学科オープンキャンパスで参加者に大学案内のアンケート調査を実施した。また受験経験者である本学学生の意見をキャンパスミーティングにおいて聴取し、大学院の情報の掲載内容充実や、幅広い年齢層の卒業生の掲載について意見があり、次年度作成にあたり参考とする予定。</p> <p>・医学科においては、良き医療人を育成するため高校生を対象とした医療体験実習「奈良医大メディカルサマープログラム」を立ち上げ、8月、県立高校を対象として試行的にプログラム実施し13名が参加した。その概要を学報に掲載し、学内外に発信した。また、高大連携事業として生物学教室で実習体験講義を8月の夏休み期間に実施し21名が参加した。</p> <p>・看護学科においては、県内公立高校5校に向いて本学教員による模擬講義を実施した。</p> <p>・本学入学者の多い県内高校（県内公立高校4校）に、本学看護学科長と看護教育部長が訪問し進路指導部長と意見交換を行った。看護学科オープンキャンパスを7/27に実施し、模擬講義や、施設見学を行った。</p> <p>(※続き次頁)</p>	A	<p>④医師・看護師・保健師・助産師の現役卒業生の国家試験合格率の向上</p>	A	目標	医師	国公立大学 トップ10	国公立大学 トップ10	国公立大学 トップ10	国公立大学 トップ10	国公立大学 トップ10	国公立大学 トップ10	---
					実績	看護師	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
				A	医師	1位	7位					e	
				A	看護師	100%	95.2%						
				S	保健師	100%	100%					c	
				S	助産師	100%	100%						
				A	目標	-	広報活動により、本学が求める資質を備えた受験生増加を図る					---	
				A	実績	-	高校生対象の医療体験実習、高校訪問による模擬講義の実施					e	

2019年度計画の実績及び評定理由		評価	実現目標	評価	現状	2019	2020	2021	2022	2023	2024	評価区分			
(2)	<p>(※前頁続き)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シミュレーション教育を推進するため、臨床医学教育協議会でスキルスラボの活用促進を呼びかけ、救急医学や麻酔科学等の臨床実習で活用された。また、12月から開講する次学年生の臨床実習では、更なる活用促進を呼びかけた。また、スキルスラボ委員会で臨床実習でのシミュレーション教育の現状や問題点等を議論し、臨床教育協議会でスキルスラボの活用実績を示したうえ、モデルコアカリキュラムの内容や活用促進を再度周知するなどシミュレーション教育の活用促進策を決定した。</li> <li>・参加型臨床実習を促進するため、教務委員会の事前検討部会として「臨床教育あり方部会」と部会の下に現状評価、モデルコアカリキュラムとの整合を図りながら改善案を作成することを目的とした「臨床医学教育あり方WG」を設置した。また、臨床実習に進む前過程である統合臨床講義のあり方についても議論する等、臨床教育全体のあり方を見直すため、1月から複数回、あり方部会及びWGを開催し、議論を行った。</li> <li>・看護技術項目の到達度が低い項目について、看護学科教務委員会実習モニタリングWG及び教務委員会で事由を分析し看護学教育協議会で情報共有した(到達度平均は83.6%)。</li> <li>・医学科4年次の統合臨床講義で開講している行動科学Ⅱについては、講義時間を3コマ拡充させて実施するとともに、患者さんと接する際に重要となるコミュニケーション技法をロールプレイングの講義形態を取り入れる等の工夫を加えて実施した。</li> <li>・また、良き医療人となる前提として、学生の倫理・行動規範である「私たちのプロフェッショナル宣言(案)」を学生主導(各学年の総代)で作成し、学生支援委員会及び教務委員会の承認を経て策定した。「私たちのプロフェッショナル宣言」を名札に収納可能なサイズの冊子にまとめ、全学生に配布を行うとともに、学生に常に携行することを義務付けた。</li> <li>・臨床実習で教育成果目標(アウトカム)を把握する一つの項目として、全診療科に「担当疾患リスト」の作成を依頼し、臨床実習で学生が経験する疾患の把握を可能とした。</li> <li>・看護技術項目到達度の平均を90%以上に向上させるため、看護技術項目の到達度が低い項目について、看護学科教務委員会実習モニタリングWG及び教務委員会で事由を分析し看護学教育協議会で情報共有した。2019年度については対象者全員から看護技術項目到達度チェックリストの提出があり、到達度平均は83.6%。到達度の低い項目についてはカリキュラムの変更も含めて対応を検討する。</li> <li>・平成28年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムに基づき、医学科教務委員会で教養教育のあり方の課題を抽出した。</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画を十分に実施している。</p>	<p>(前頁記載)</p>	⑥「良き医療人」育成にかかる教養・基礎・臨床・看護各分野におけるカリキュラムの最適化 (1) CBT合格率の向上	S	目標	-	93%	93.4%	93.8%	94.2%	94.6%	95%	---		
					実績	92.4%	99%							d	
			(2)Post-CC OSCE合格率の維持	S	目標	-	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	---	
					実績	100%	100%								c
			(3)看護技術項目到達度チェックリストの到達度平均の向上	B	目標	-	平均90%以上	平均90%以上	平均90%以上	平均90%以上	平均90%以上	平均90%以上	平均90%以上	---	
					実績	84.8%	83.6%								d
			⑦臨床実習における学生の経験内容を評価・充実	B	目標	-	経験及び症例把握システム(各科担当疾患リスト)構築	教育成果目標(アウトカム)評価実施					教育成果目標(アウトカム)達成度70%	---	
						-	「看護技術項目到達度チェックリスト」の到達度の向上								
				B	実績	-	担当疾患リスト作成(経験する疾患を把握するシステム構築)								e
				B		-	到達度の低い項目について事由を分析								
⑧教養教育科目の見直し	B	目標	-	モデル・コア・カリキュラムの理念に則り、教養教育等全教育課程の見直しを実施							---				
		実績	-	教養教育のあり方の課題を抽出								e			

9 教員の教育能力開発と教育全般に関する360度評価	価値目標	(1) 魅力ある教育を実現するため、学生の参加を推進するとともに、教員の教育能力を向上	価値目標評価	A
----------------------------	------	---	--------	---

<p>取組内容（2019～2024年度）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学生の能動的学習を促進するため、「アクティブ・ラーニング」（反転授業、e-ラーニング、小グループ講義、形成的評価、臨床実習の360度評価）による新しい授業手法を積極的に導入、実施</li> <li>○講義形式のFD研修に加え、ワークショップ形式等の実践的研修手法を導入し、教員の教育能力を向上</li> <li>○高度な知識・技術を有する看護師を養成するため、高度な教育力・研究力を持った教員の人材育成を行うことを目的として、看護学研究科博士課程を設置</li> <li>○学習内容や教育手法の評価を目的とした授業アンケート調査票を新たに開発し、継続的にアンケート調査を実施し、各科目担当にフィードバック</li> <li>○外部有識者の教育評価を受け、教育内容の質を向上             <ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年の医学教育分野別評価（日本医学教育評価機構）における指摘事項28項目を着実に改善する。</li> <li>・日本看護学教育評価機構による看護学教育分野別認証評価を受審する。</li> <li>・教育内容及び教育方法の評価等に関する事項について、外部有識者評価を受けるため、教育評価委員会を定例的に開催するとともに、その指摘事項を改善する。</li> </ul> </li> </ul>	<p>2019年度計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統合臨床講義等において、新たに小グループ講義及び学生モニタ制を導入し、教員と学生との双方向授業を推進する。</li> <li>・学生の能動的学習を促進するため、医学科の各教育課程における学生の学習能力到達状況の形成的評価を実施する。</li> <li>・FD研修に実践的研修手法を導入する。</li> <li>・看護学研究科博士課程新設のための情報収集及び課題の把握を行う。</li> <li>・授業内容や教育手法の課題等を的確に把握するため、新たな授業評価アンケート調査票を開発し、試行する。</li> <li>・医学教育分野別評価における指摘事項を着実に改善する。</li> <li>・2021年度に看護学教育分野別認証評価を受審するための情報収集を行う。</li> <li>・教育評価委員会を開催し、継続的に教育内容等の外部有識者評価を受ける。</li> </ul>
---	--

2019年度計画の実績及び評定理由	評価	実績目標	評価	現状	2019	2020	2021	2022	2023	2024	評価区分		
<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の能動的学習を促進するため、講義及び実習で下記のような「アクティブ・ラーニング」を導入した。             <ul style="list-style-type: none"> <li>・4年次の統合臨床講義全科目について、学生の事前学習を促すため、講義資料を原則授業開始1週間前に教務システムへのアップロードを徹底。事前学習を前提とした講義の実施や、学生の意見を講義内容に反映することを目的に各講義に「学生モニタ制」を導入。さらに、新たに開講した「医師・患者関係学」に小グループ講義を導入。</li> <li>・入門臨床手技実習（1年、2年、3年）に60分のペアワーク、teaching is learningセッションの設定及び事前学習を促すためにpretestを導入。</li> </ul> </li> <li>・学習能力到達状況の形成的評価を実施するため、入門臨床手技実習（1年、2年、3年）にpretestを導入した。また、医学科3年次の11月にBNAT（基礎医学知識到達度評価試験）を、5年次の12月にCNAT（5年次臨床医学能力到達度評価試験）を導入した。</li> <li>・実践的研修として、看護学科教員を対象にシミュレーション研修「指導者が知っておくべきシミュレーション教育の基礎知識」を7/30に実施した。</li> <li>・看護学研究科博士課程の2024年度新設に向けて、審査要件を確認し看護学教育協議会において全教員に周知した。また、様々な審査要件・内容についての情報収集及び課題の把握を継続的に行った。</li> <li>・授業内容や教育手法の課題等を的確に把握するため、学生を対象とした授業、学生生活に関するグループインタビューを複数回行い、その場で提示された意見のテキスト解析を行った。11月に予備調査を実施し、解析結果を基にアンケート調査票を開発・試行して、アンケート内容の妥当性と信頼性を確認した。</li> <li>・医学教育分野別評価における指摘事項について、昨年度実施した改善事項及び今後の計画を8月に取りまとめ、認証機関に報告した。</li> <li>・2022年度に看護学教育分野別認証評価を受審するため、受審校の審査内容に関する情報収集及び課題の把握を継続的に行った。</li> <li>・臨床実習を改善するため、内科及び外科の実習参観を外部委員を交えて実施した。その評価結果等を含めた教育内容の外部評価を受けるため、2月に教育評価委員会を開催し、外部有識者評価を受けた。</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画を十分に実施している。</p>	A	①アクティブ・ラーニングの推進	A	目標	-	「アクティブ・ラーニング」による新しい授業手法導入及び実施					---		
		実績	-	小グループ講義及び学生モニタ制導入						e			
		②授業手法改善のためのワークショップ等の参加率の向上	A	目標	-	講義形式のFD研修実施							---
		実績	-	ワークショップ形式等FD研修内容検討	ワークショップ形式のFD研修実施 参加率100%							e	
		③高度な教育・研究力を持った看護系教員養成のための看護学研究科の設置	A	目標	-	博士課程設置に向けた要件整理				申請	審査	設置	---
		実績	-	講義形式のFD研修を実施						e			
		④学習内容や教育手法の充実度について、各科目単位で学生からの評価を実施・向上	A	目標	-	アンケート開発 トライアル実施	継続的にアンケート調査及びフィードバックを実施					---	
		実績	-	シミュレーション教育に関するFD研修を実施						e			
		⑤医学教育分野別評価	A	目標	-	指摘事項28項目の改善				認証更新	指摘事項改善	---	
		実績	-	審査要件等の情報収集及び課題の把握	指摘事項及び今後の計画の取りまとめ					e			
		⑥看護学教育分野別認証評価	A	目標	-	受審準備			受審	指摘事項の改善			---
		実績	-	審査内容に関する情報収集及び課題の把握						e			

10 学生への支援の推進	価値目標	(1) 教員・学生間対話を拡大し、学生全体対話の他、個別面談やカウンセリング等の個別対話を拡大	価値目標 評価	B
--------------	------	---	------------	---

取組内容（2019～2024年度）		2019年度計画										
<p>○学生の学習意欲の向上を目的とした教員・学生との対話の機会を充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパスミーティングを定例開催する。</li> <li>・効率的な出席確認システムを導入し、授業への出席状況を学生にフィードバックする。</li> <li>・成績下位者や欠席が続く学生等に対して、学習カウンセリングや早期にアドバイザー教員の面談等を実施する。</li> </ul> <p>○学生の自主研究・生涯学習の態度及び研究マインドの育成を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の自主研究活動を支援する。</li> <li>・海外におけるリサーチ・クラークシップ及び臨床実習を重点的に支援する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパスミーティングを全学年について定例的に開催する。</li> <li>・教員、学生双方がリアルタイムで出席状況を把握できる出席確認システムを導入する。</li> <li>・医学科において、BNAT（基礎医学知識到達度評価試験）及びCNAT（5年次臨床医学能力到達度評価試験）での成績下位者に対して、学習カウンセリングを実施する。</li> <li>・看護学科において、教育協議会で学生の情報交換を行うとともに、国家試験模試等の成績下位者について、早期にアドバイザー教員の面談を実施する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部生の自主的研究活動を奨励するために、学会発表の旅費助成や研究活動学内発表会を実施する。また研究指導を行う講座に対して学生研究活動費を助成する。</li> <li>・海外でのリサーチ・クラークシップを継続的に実施するため、海外実習施設を確保する。</li> <li>・海外での臨床実習を推進するため、現行の実習施設に加え、学生自身が選定した施設についても実習可能とする制度改正を実施する。</li> <li>・リサーチ・クラークシップ旅費助成をはじめとした現行の国内海外旅費等助成に加え、臨床実習における、国内海外実習施設への旅費助成を新設する。</li> </ul>											
		2019年度計画の実績及び評定理由	評価	実現目標	評価	現状	2019	2020	2021	2022	2023	2024
<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパスミーティングを10月に開催し、各学年代表者と医学部長、看護学科長、各教育部長、学生支援委員長を参加者とし、「プロフェッショナル宣言」[大学案内]「学生アメニティ事業」等の内容について意見交換を実施した。</li> <li>・教員、学生双方がリアルタイムで出席状況を把握できる出席確認システムを導入し、授業への出席状況を学生にフィードバックした。</li> <li>・医学科3年次の11月に実施したBNAT及び5年次の12月に実施するCNATの成績下位者に対する学習カウンセリングの実施方法等について、試験結果を基に各科目の定期試験や国家試験等との相関などの分析を行った。また、CNATの成績不良者を対象に学習カウンセリングを行い、現状の認識を促すとともに国家試験に向けてのフォローアップを実施した。</li> <li>・看護学科において、看護学教育協議会で学生の情報交換を行うとともに、国家試験模試等の成績下位者について、早期にアドバイザー教員の面談を実施し、学習カウンセリング内容等の情報共有を行い、統一的な運用によるフォローの導入を実施した。</li> </ul> <p>・研究マインドの育成を支援するため、下記事業を通じて学生の自主研究活動を奨励した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>研究医を目指す学生を支援するため、学会参加旅費を助成（14件906千円）</li> <li>研究指導を行う講座に対して学生研究活動費を助成（9講座90千円）</li> <li>年1回の研究活動学内発表会を3月に予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リサーチ・クラークシップに係る海外を含めた学外実習施設への学生派遣を継続させる目的で、受入先教員の招聘や、本学教職員が現地訪問し継続的な実施を調整するために要する費用を助成する制度を創設し、37施設（海外18施設、国内19施設）の確保に努めた。</li> <li>・海外医療機関での臨床実習を推進するため、希望する学生が能動的に実習先を選択できるよう、学生自身が選定した施設についても実習可能とする制度改正を行った。また、臨床実習を充実させるため、ハワイ大学医学部が提供し、文部科学省承認済みの米国式医学教育プログラムであるハワイ医学教育プログラム（HMEP）を導入し、ハワイ（米国）式のClerkship（学生参加型実習）を学生に体験させることを決定した。</li> <li>・国内、海外機関での学外実習を推進するため、医学科2年次でのリサーチ・クラークシップに係る国内海外実習参加旅費を助成することを決定した。</li> <li>臨床実習にかかる学外実習参加旅費を助成（3件163千円）</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画をおおむね実施している。</p>	B	①成績下位者に対する学習支援の実施	目標	-	定期的にキャンパスミーティングの実施						---	
			実績	-	キャンパスミーティングを10月開催						e	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究医を目指す学生を支援するため、学会参加旅費を助成（14件906千円）</li> <li>研究指導を行う講座に対して学生研究活動費を助成（9講座90千円）</li> <li>年1回の研究活動学内発表会を3月に予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リサーチ・クラークシップに係る海外を含めた学外実習施設への学生派遣を継続させる目的で、受入先教員の招聘や、本学教職員が現地訪問し継続的な実施を調整するために要する費用を助成する制度を創設し、37施設（海外18施設、国内19施設）の確保に努めた。</li> <li>・海外医療機関での臨床実習を推進するため、希望する学生が能動的に実習先を選択できるよう、学生自身が選定した施設についても実習可能とする制度改正を行った。また、臨床実習を充実させるため、ハワイ大学医学部が提供し、文部科学省承認済みの米国式医学教育プログラムであるハワイ医学教育プログラム（HMEP）を導入し、ハワイ（米国）式のClerkship（学生参加型実習）を学生に体験させることを決定した。</li> <li>・国内、海外機関での学外実習を推進するため、医学科2年次でのリサーチ・クラークシップに係る国内海外実習参加旅費を助成することを決定した。</li> <li>臨床実習にかかる学外実習参加旅費を助成（3件163千円）</li> </ul> <p>以上のことから、年度計画をおおむね実施している。</p>	B	②学生の自主研究・生涯学習の態度及び研究マインドの育成の支援	目標	-	学生の自主研究活動及びリサーチ・クラークシップ並びに臨床実習の支援を実施						---	
			実績	-	学生の自主研究活動及びリサーチ・クラークシップ並びに臨床実習の支援を実施 (新たにリサーチ・クラークシップの受入先教員の招聘及び本学教職員の現地訪問費用の助成)						e	



1 1 学習環境と教育環境の充実	価値目標	(1) 豊かな知識と優れた技能、地域貢献の気概を持った国際水準の医療人を育成するために、学習環境と教育環境を改善	価値目標 評価	B
------------------	------	--	------------	---

取組内容（2019～2024年度）	2019年度計画													
<p>○県と連携して新キャンパス先行整備の竣工を目指すとともに、継続整備を検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンパス整備検討ワーキング等を通じて、学内の意見を集約し、検討を行う。</li> <li>・整備にあたっては、文化財発掘調査、造成、建設工事を適正に行い竣工を目指す。</li> <li>・県と連携して継続整備の整備方針を策定する。</li> </ul> <p>○修学環境を改善するため、自習スペース（ラーニングcommons）の確保、学生アメニティ事業等を推進・学生の学びやすい環境を支援するため、自習室等における学内ネット環境を充実させる。</p> <p>○地域社会から期待される医学及び看護学並びに医療分野のリーダーとなれる人材を養成するため、大学院教育を充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2018年度に策定した基本計画をうけ、関係者との調整を行うとともに、基本設計の準備を進める。</li> <li>・地区計画の決定に向けて、県・市及び地元と調整を行い、榑原市が榑原市都市計画審議会に対して行う2019年7月の事前説明及び2020年2月の付議のための資料を榑原市に提出する。</li> <li>・埋蔵文化財発掘調査の実施エリア、スケジュールの調整と調査を開始する。</li> <li>・造成予備設計委託の業者の選定と設計委託を実施する。</li> <li>・継続整備の実施に向けて、県と連携しながらそのスケジュールを把握するとともに、キャンパス整備検討ワーキング等において整備方針の検討を行う。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生ホールの環境を整備するとともに、基礎医学棟学生自習室を拡充しネット環境の整備する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院医学研究科における共通科目のあり方と研究指導に関する課題を洗い出す。</li> <li>・大学院看護学研究科助産学実践コースにおいて、本学附属病院での実習時間を拡充する等、実習を充実する。</li> </ul>													
2019年度計画の実績及び評定理由	評価	実現目標	評価	現状	2019	2020	2021	2022	2023	2024	評価区分			
<p>・来年度の基本設計に向け、契約方法などの進め方について県と協議を行った。</p> <p>・地区計画について、7月の榑原市都市計画審議会プレビュー、その後の地権者及び市民向けの縦覧を経て、2/19の榑原市都市計画審議会に諮り、3/18付けで都市計画を決定した。</p> <p>・3年計画の新キャンパス埋蔵文化財発掘調査の1年目を完了。その後2年目の発掘調査について調整を行った。</p> <p>・造成予備設計を行い、盛土・切土、市道・水路の付け替えなどの設計を実施した。</p> <p>・12月にキャンパス整備検討ワーキングメンバーに対し、整備状況をメールにて報告を行った。</p> <p>・継続整備方針の検討に向けて、他学調査を実施。2/25に埼玉医科大学の現地調査を行った。金沢医科大学にも調査を依頼したが新型コロナウイルスの影響でメール調査に変更し実施した。3/24の研究推進戦略本部会議にて調査結果を発表し、情報を共有した。</p> <p>・学生アメニティ向上のために、学生ホールのソファ、ウォータークーラー及び傘立てを更新した。また、基礎医学棟自習室を拡充及び自習室のネット環境整備のためWi-Fiを設置した。</p> <p>・昨年度の大学院修士及び指導教員等に実施した研究能力・指導評価アンケート結果に基づき、10月の運営委員会で研究指導に関する課題の洗い出しや分析を実施し、全指導教員を委員として構成する同月の大学院医学研究科課程委員会で全指導教員に周知した。また、必須である共通科目のあり方に関するアンケート調査票を1月の運営委員会で議論し、実施した。</p> <p>・大学院看護学研究科助産学実践コースにおいて、2019年度以降の入学生より助産学実習でハイリスク分娩等の実習を充実した。</p> <p>また、大学院看護学研究科において高度実践看護師（CNS）教育課程「がん看護分野」の2020年度設置を日本看護系大学協議会に申請し、認定された。これを受け、1/23に大学院看護学研究科（修士課程）看護学専攻看護学コース「がん看護分野」の二次募集を実施し、1名が受験し、合格した。</p> <p>以上のことから、年度計画をおおむね実施している。</p>	B	<p>①県と連携して新キャンパス先行整備の竣工を目指すとともに、継続整備について検討</p>	B	目標	-	文化財発掘調査			-	-	-	---		
				-	都市計画決定	造成設計・工事			-	-	-			
				-	建築基本・実施設計・工事									
				-	継続整備方針検討									
		-	文化財発掘調査											
		-	市都市計画審議会プレビュー 16条縦覧 17条縦覧 市都市計画審議会本審議 都市計画決定											
		-	-											
		-	他学調査を行い、研究推進戦略本部会議にて発表											
		-	目標	随時、修学環境の改善を実施									---	
		-	実績	学生ホールの環境整備と自習室ネット環境整備										
-	目標	大学院教育の充実を図る									---			
-	実績	アンケート結果に基づく課題分析、助産学実習の充実												